

## ブラジル

景気  
(実質)  
GDP

Q3GDP成長率  
**-4.5%**  
前年同期比



### [2年連続景気後退か]

景気後退による歳入伸び悩みと格下げによる金利上昇で財政赤字拡大。インフレ高進がルセフ大統領の不支持と消費マインドの低下に大きく影響。

物価  
(CPI)

1月インフレ率  
**+10.71%**  
前年同月比



### [03年11月来の高水準]

洪水で野菜価格が高騰し、ウエイトの1/4占める食料品が前年比12%超の上昇。主要通貨で最大下落幅のレアル安と公共料金値上げも物価上昇に寄与。

金融  
政策

**14.25%**



### [政治圧力]

景気回復優先する政府圧力に屈し4回連続据え置き。中銀の信頼揺らぎレアル下落、さらにインフレ悪化の恐れも。

国際  
収支

12月経常収支  
**-24.6**  
億米ドル



### [赤字大幅縮小]

15年の経常赤字589億ドル(GDP比3.3%、前年比-43%)。未曾有の不況による輸入の大幅減が主因。

為替

〈騰落率〉

	(1月末)	1か月間 (12月末)	3か月間 (10月末)	前年初来 (14年12月末)
対円 (1レアル=30.28円)		(30.37円) <b>0.28%</b>	(31.28円) <b>3.18%</b>	(45.05円) <b>32.78%</b>
対ドル (1ドル=4.00レアル)		(3.96レアル) <b>0.99%</b>	(3.86レアル) <b>3.37%</b>	(2.65レアル) <b>51.13%</b>

### [軟調なレアル]

統計開始以来最大の落ち込みとなった15年の鉱工業生産、慢性化する政局不安、原油安などがレアルの頭を抑えよう。

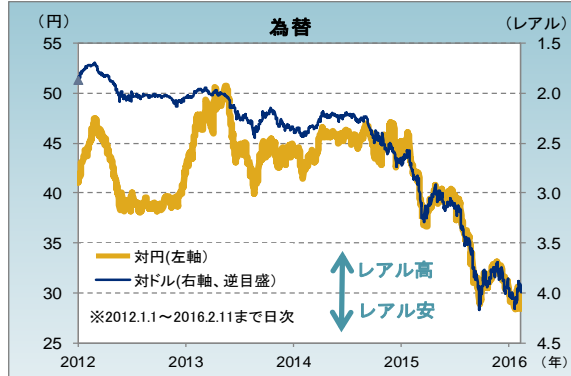
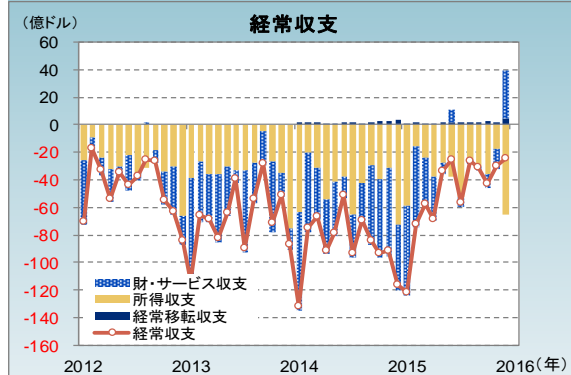
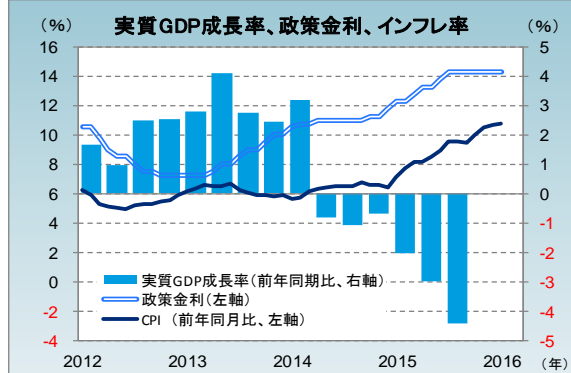
株式

〈騰落率〉

	(1月末)	1か月間 (12月末)	3か月間 (10月末)	前年初来 (14年12月末)
ボベスパ指数 (40,405.99)		(43,349.96) <b>6.79%</b>	(45,868.82) <b>11.91%</b>	(50,007.41) <b>19.20%</b>

### [下値模索]

中国経済への依存度の高い銘柄や資源株が軟調となり、株式相場は上値の重い展開。



## オーストラリア

景気  
(実質)  
GDP

Q3GDP成長率  
**+2.5%**  
前期比



### 【緩やかな回復】

資源安による輸出金額停滞を豪ドル安を追い風とした輸出数量増加で補完。観光客増加で良好なサービスを筆頭に労働市場が堅調で消費も上向き。

物価  
(CPI)

Q3インフレ率  
**+1.7%**  
前年同月比



### 【低位安定】

通貨安に伴う輸入インフレを原油安が相殺、15年のCPIは+1.7%と目標レンジ(2-3%)の下限以下。今後1-2年は低水準で推移する公算。

金融  
政策

**2.0%**



### 【追加緩和示唆】

良好な雇用環境や住宅市況から現状を適切と判断。低インフレが長引けば需要喚起のための追加緩和を示唆。

国際  
収支

12月貿易収支  
**-35**  
億豪ドル



### 【赤字額拡大】

主力の鉄鉱石価格大幅下落により輸出額低迷で市場予想比4割以上の貿易赤字額。輸出5%減、輸入1%減。

### 〈騰落率〉

	(1月末)	1ヵ月間 (12月末)	3ヵ月間 (10月末)	前年初来 (14年12月末)
対円 (1豪ドル=85.82円)		(87.60円) <b>2.03%</b>	(86.11円) <b>0.33%</b>	(97.86円) <b>12.30%</b>
対ドル (1豪ドル=0.71ドル)		(0.73ドル) <b>2.79%</b>	(0.71ドル) <b>0.77%</b>	(0.82ドル) <b>13.31%</b>

### 【上値重い】

中銀の先行き追加利下げ観測でやや上値重い、資源価格の下げ止まり、相対的な高い利回りは豪ドルにとってプラス材料。

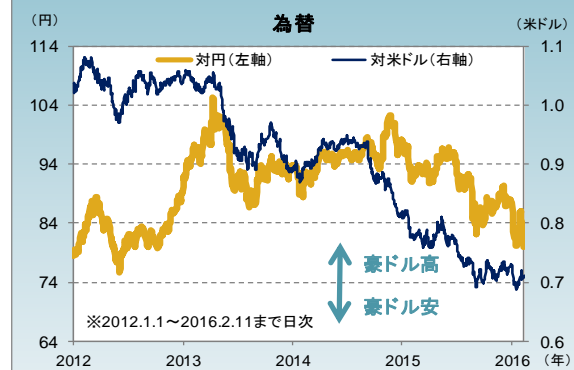
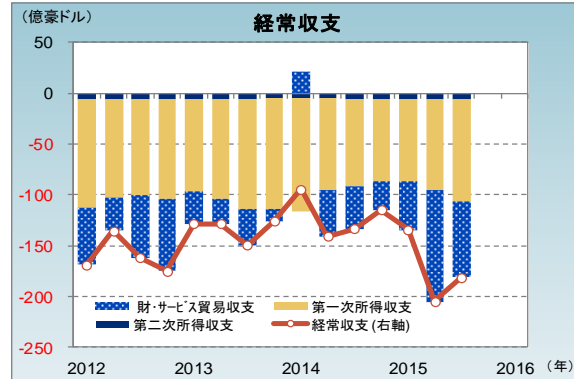
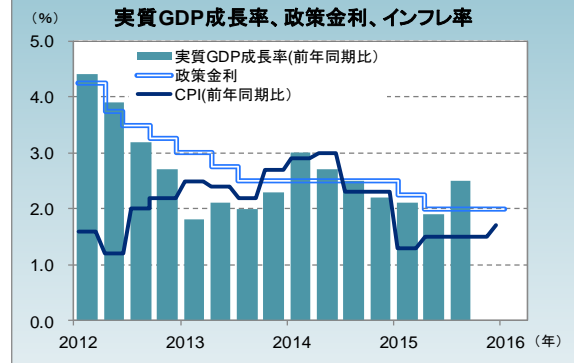
株式

### 〈騰落率〉

	(1月末)	1ヵ月間 (12月末)	3ヵ月間 (10月末)	前年初来 (14年12月末)
S&P/ASX指数 (5,005.52)		(5,295.90) <b>5.48%</b>	(5,239.44) <b>4.46%</b>	(5,411.02) <b>7.49%</b>

### 【商品市況とともに下落】

原油安発の世界的な株安の流れを受け、下落。商品相場の落ち着きが上昇のカギ。



## トルコ

景気  
(実質)  
GDP

Q3GDP成長率  
**+4.0%**  
前年同期比

### 【製造業が好調】

好調な欧州市場を背景に15年の自動車の生産・輸出が過去最高。国内販売台数も年率+25%と製造業が堅調。一方テロ続きで観光業が振るわず重しに。

物価  
(CPI)

1月インフレ率  
**+9.58%**  
前年同期比

### 【インフレ高進】

ウェイト1/4を占める食料品が年率+12%、先月増税されたタバコとアルコールが同+11%と大幅上昇。インフレ目標の5%のほぼ倍で高止まり。

金融  
政策

**7.5%**

### 【11か月連続据え置き】

エルドアン大統領の緩和圧力に屈した懸念。投資家、IMFはインフレ抑制のための利上げの必要性を強調。

国際  
収支

12月貿易収支  
**-62**  
億ドル

### 【赤字大幅減】

15年貿易赤字は前年比25%減の632億ドル。原油安でエネルギー輸入が3割減、輸出は欧州向けが好調で微増。

為替

〈騰落率〉

	(1月末)	1か月間 (12月末)	3か月間 (10月末)	前年初来 (14年12月末)
対円 (1リラ=41.00円)		(41.25円) <b>0.61%</b>	(41.38円) <b>0.92%</b>	(51.20円) <b>19.93%</b>
対ドル (1ドル=2.95リラ)		(2.92リラ) <b>1.27%</b>	(2.92リラ) <b>1.36%</b>	(2.33リラ) <b>26.56%</b>

### 【下落圧力高まる】

政治圧力に屈した中銀の信任失墜で失望売り、リラの下落圧力が高まりやすい地合い。

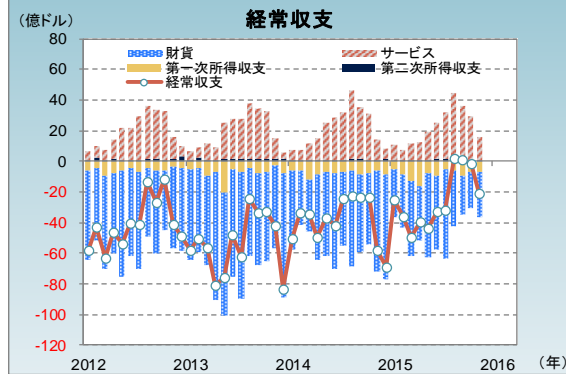
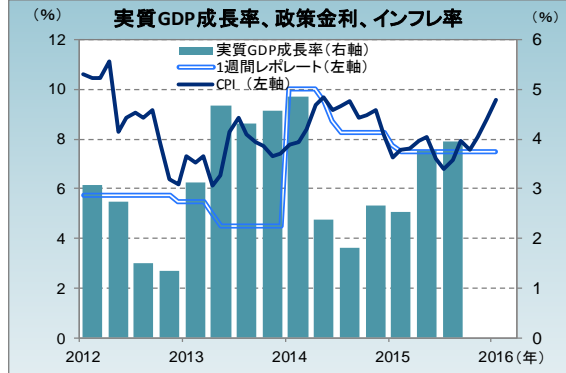
株式

〈騰落率〉

	(1月末)	1か月間 (12月末)	3か月間 (10月末)	前年初来 (14年12月末)
イスタンブール 100種指数 (73,481.09)		(71,726.99) <b>2.45%</b>	(79,409.00) <b>7.47%</b>	(85,721.13) <b>14.28%</b>

### 【上値重い展開】

ロシアとの緊張など地政学的リスクの高まり、憲法改正をめぐる政局不安など海外投資家が敬遠しやすい展開。



## メキシコ

景気  
(実質)  
GDP

Q4GDP成長率  
**+2.5%**  
前年同期比

### [緩やかに拡大]

15年成長率は前年比+2.5%と14年の同+2.1%より加速。政府の経済改革が奏功し、IMF予想では16年は+2.6%と穏やかな景気回復が見込まれる。

物価

1月インフレ率  
**+2.61%**  
前年同期比

### [やや加速]

ペソ安や食品・ガスの値上がりが主因。最低を記録した先月より加速するも、インフレ目標の3%下回る水準で推移。

金融  
政策

**3.25%**

### [予想通り据え置き]

ペソ急落ながらもインフレは低位安定。中銀は「ペソ安によるインフレリスクを注視する。」としながらも、米国に追随する姿勢続ける意向。

国際  
収支

12月貿易収支  
**-9.3**  
億ドル

### [貿易赤字拡大]

原油安による輸出低迷が主因。15年の貿易赤字は14年の28億ドルから144億ドルへ急拡大。

為替

〈騰落率〉

(1月末)	1か月 (12月末)	3か月 (10月末)	前年初来 (14年12月末)
対円 (1ペソ=6.69円)	(6.99円) <b>4.33%</b>	(7.31円) <b>8.51%</b>	(8.12円) <b>17.63%</b>
対ドル (1ドル=18.11ペソ)	(17.20ペソ) <b>5.29%</b>	(16.50ペソ) <b>9.75%</b>	(14.76ペソ) <b>22.70%</b>

### [外部要因]

主要輸出品の原油の価格急落や世界経済の減速で安値更新。当局は現在の為替介入(1日当たり最大4億ドル)を3月末まで延長すると発表し、通貨防衛の姿勢示す。

〈騰落率〉

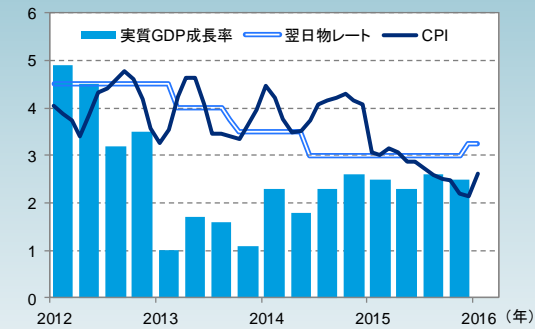
株式

(1月末)	1か月 (12月末)	3か月 (10月末)	前年初来 (14年12月末)
ボルサ指数 (43,630.77)	(42,977.50) <b>1.52%</b>	(44,542.76) <b>2.05%</b>	(43,145.66) <b>1.12%</b>

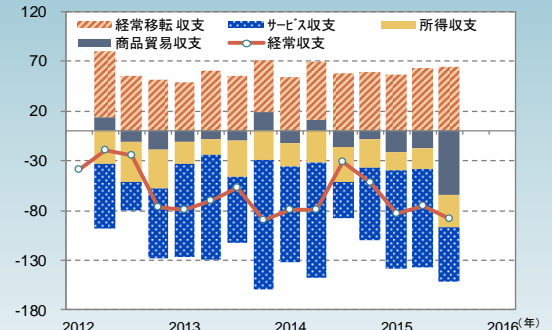
### [原油安が懸念]

政府主導のエネルギー改革下での初の民間油田入札では、原油安により海外からの投資流入期待が減退。原油相場に振られる展開か。

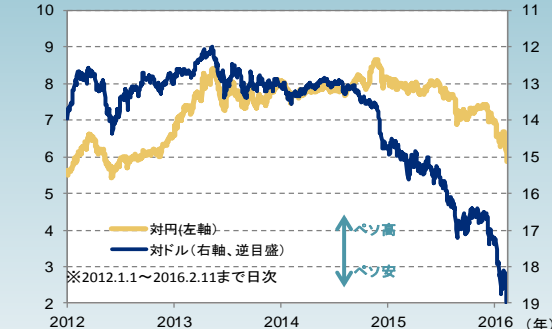
実質GDP成長率、政策金利、インフレ率



経常収支



為替



株価指数



## 南アフリカ

景気  
(実質)  
GDP

Q3GDP成長率  
**+1.0%**  
前年同期比

### [輸出が堅調]

ランド安を追い風に欧米向けの輸出が好調、15年自動車輸出台数は前年比2割増と堅調。一方でインフレ高進や金利引き上げが家計へ打撃、消費低迷。

物価

12月インフレ率  
**+5.2%**  
前年同月比

### [1年ぶり高水準]

ランドの急落に加え、史上最悪の干ばつで食料価格が年率+5.9%と物価押し上げ。インフレ目標上限6%超える懸念。

金融  
政策

**6.75%**

### [2会合連続利上げ]

インフレ見通し(16年前年比+6.8%、17年同+7%)悪化に伴い、通貨下支えとインフレ抑制のため利上げ。

国際  
収支

11貿易収支  
**+82**  
億ランド

### [黒字大幅増]

ランド安で増加が期待された輸出が前月比-5.1%と低迷、それ以上に輸入が前月比-13.3%と減速したことが原因。15年貿易赤字は前年比-40%と大幅減。

為替

〈騰落率〉

(1月末)	1か月 (12月末)	3か月 (10月末)	前年初来 (14年12月末)
対円 (1ランド=7.62円)	(7.78円) <b>2.01%</b>	(8.73円) <b>12.66%</b>	(10.36円) <b>26.42%</b>
対ドル (1ドル=15.88ランド)	(15.48ランド) <b>2.63%</b>	(13.82ランド) <b>14.91%</b>	(11.57ランド) <b>37.33%</b>

### [軟調な地合い]

中銀の利上げ受け、対ドルで一時上昇するも、原油安基調で資源輸出国通貨として、ランドは軟調な地合い。

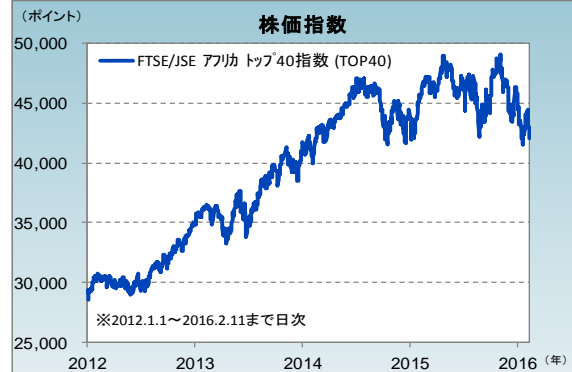
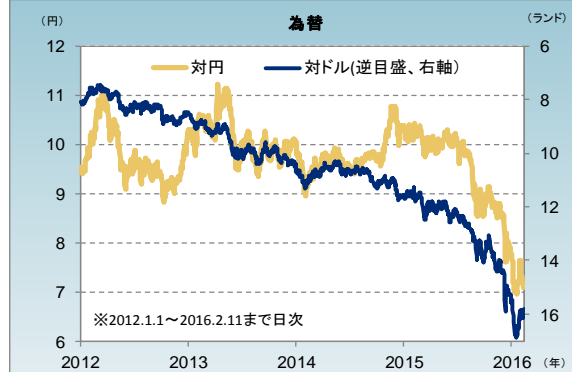
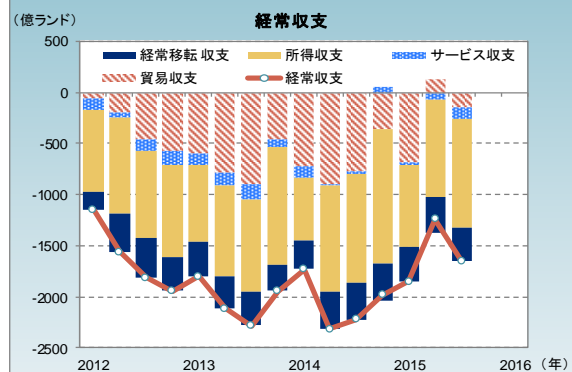
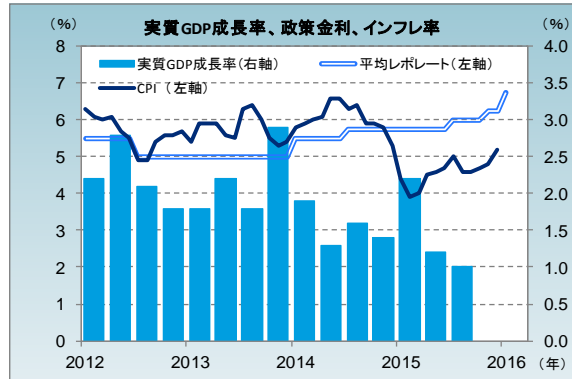
株式

〈騰落率〉

(1月末)	1か月 (12月末)	3か月 (10月末)	前年初来 (14年12月末)
TOP40株価指数 (44,065.55)	(45,797.30) <b>3.78%</b>	(48,317.45) <b>8.80%</b>	(43,969.96) <b>0.22%</b>

### [南アの鉱業株低迷]

慢性的な電力不足やストライキに加え、鉱業関連の複雑な規制で投資マインド減退、資源生産大手が次々と撤退。南アの鉱業株のプレゼンス弱まる。



## 中国

景気  
(実質)  
GDP

Q4GDP成長率  
**+6.8%**

### [製造業が足かせ]

労働人口減・所得倍増政策のため賃上げ断行。人件費高騰が低迷する製造業や対中投資の重しに。生産性向上が急務だが景気後退局面で設備投資増えず。

物価

12月インフレ率  
**+1.6%**  
前年同月比

### [デフレ懸念]

15年インフレ率が前年比+1.4%と政府目標+3%の半分以下、過去6年間で最低。生産者物価指数(PPI)が46か月連続低下とデフレ圧力一段と高まる。

金融  
政策

**4.35%**

### [追加利下げ観測]

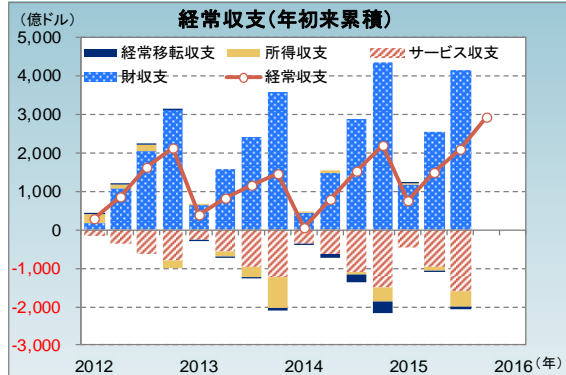
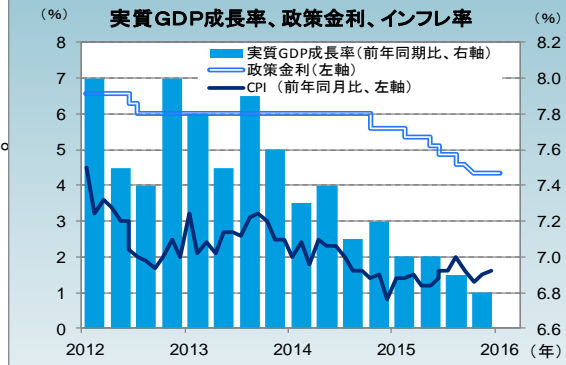
低位インフレやPPI低下続き、利下げで企業の債務負担削減の必要性。景気刺激策の実施余地高まる。

国際  
収支

Q4経常収支  
**+843**  
億ドル

### [一順一逆]

対外純資産増加に伴い資本流出、経常収支は黒字の一方、資本収支は赤字に転落。



為替

〈騰落率〉

	(1月末)	1か月 (12月末)	3か月 (10月末)	前年初来 (14年12月末)
対円 (1元=18.42円)		(18.52円) <b>0.52%</b>	(19.10円) <b>3.54%</b>	(19.29円) <b>4.52%</b>
対ドル (1ドル=6.58円)		(6.49円) <b>1.26%</b>	(6.32円) <b>4.11%</b>	(6.21円) <b>5.97%</b>

### [元安観測]

米利上げに伴う元安を為替介入で阻止。外貨準備の急減を嫌う資本流出がさらなる元安誘う恐れも。

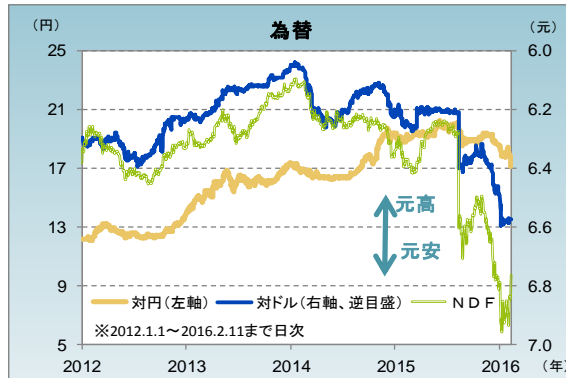
〈騰落率〉

	(1月末)	1か月 (12月末)	3か月 (10月末)	前年初来 (14年12月末)
上海総合指数 (2,737.60)		(3,539.18) <b>22.65%</b>	(3,382.56) <b>19.07%</b>	(3,234.68) <b>15.37%</b>
香港ハンセン指数 (19,683.11)		(21,914.40) <b>10.18%</b>	(22,640.04) <b>13.06%</b>	(23,605.04) <b>16.61%</b>

株式

### [大型株重し]

時価総額の上位占める銀行株と石油会社がそれぞれ金利収益圧迫、原油安で軟調なため、株価全体も上値重い。



## 当資料に関してご留意いただきたい事項

### 投資信託に係るリスクについて

投資信託は、値動きのある有価証券に投資しますので、基準価額は変動します。当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等を要因として、基準価額の下落により損失が生じ、投資元金を割り込むことがあります。したがって、元金が保証されているものではありません。信託財産に生じた利益および損失は、全て受益者に帰属します。

また、投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、お申込みの際は投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

### 投資信託に係る費用について

投資信託では、一般的に以下のような手数料がかかります。手数料率はファンドによって異なり、下記以外の手数料がかかること、または、一部の手数料がかからない場合もあるため、詳細は各ファンドの販売会社へお問い合わせいただくか、各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

投資信託の購入時: 申込手数料

投資信託の換金時: 換金(解約)手数料、信託財産留保額

投資信託の保有時: 運用管理費用(信託報酬)、監査費用

運用管理費用(信託報酬)、監査費用は、信託財産の中から日々控除され、間接的に投資者の負担となります。間接的負担には、その他に有価証券売買時の売買委託手数料、外貨建資産の保管費用、信託財産における租税費用等が含まれます。また、他の投資信託へ投資する投資信託の場合には、当該投資信託において上記の費用がかかることがあります。

### <ご注意>

上記に記載しているリスクや費用につきましては、一般的な投資信託を想定しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、お申込みの際には、事前に投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

アムンディ・ジャパン株式会社

金融商品取引業者: 関東財務局長(金商)第350号

加入協会: 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

### 【当資料のご利用にあたっての注意事項等】

当資料は、アムンディ・ジャパン株式会社(以下、弊社)が投資家の皆さまに情報提供を行う目的で作成したものであり、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。当資料は法令に基づく開示資料ではありません。当資料の作成にあたり、弊社は情報の正確性等について細心の注意を払っておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に記載した弊社の見通し、予測、予想意見等(以下、見通し等)は、当資料作成日現在のものであり、今後予告なしに変更されることがあります。また当資料に記載した弊社の見通し等は将来の景気や株価等の動きを保証するものではありません。